

記者発表（資料配布）（本紙を含めA4：2枚）			
月／日（曜日）	担当部署名	電話番号	発表者名
平成25年2月1日（金） 午前10時00分	総務課 広報室	0790-82-2549	広報室長 谷口俊廣

第60回兵庫県広報コンクールで広報「さよう」が5年連続の特選

～兵庫県市町村振興協会「広報まちづくり賞」も受賞～

日ごろから本町の広報活動にご協力いただき、ありがとうございます。

県内各市町が平成24年中（1～12月）に発行・発表した各種広報媒体（広報紙・写真・映像作品）のうちから、優秀な作品を選び表彰する「第60回兵庫県広報コンクール」の各部門入賞作品が決定し、本町が広報紙部門で5年連続の特選となりましたのでお知らせします。

なお、魅力ある地域づくりに貢献した市町広報紙に対して、（財）兵庫県市町村振興協会から贈られる「広報まちづくり賞」にも併せて選ばれました。

また、映像部門では、自主制作番組「それぞれの復興—佐用町大水害の記録」が企画賞に選ばれました。

記

1. 受賞作品のあらまし

(1) 広報紙

受賞したのは、過疎化の進行によって活力が低下している本町で、ふるさとを愛する思いを糧に、“なにくそ魂”を発揮して地域の誇りを守り、未来を切り開こうと頑張っている町民の象徴的な取り組みを「佐用のチカラ」というテーマで特集した「広報さよう」平成24年12月号です。

なお、「広報さよう」は、町公式ホームページで閲覧いただくことができます

（掲載アドレス <https://www.town.sayo.lg.jp/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=1709>）

(2) 映像作品

受賞したのは、平成24年8月に、町のケーブルテレビ「佐用チャンネル」で放送した「それぞれの復興—佐用町大水害の記録」。平成21年8月の台風第9号災害を風化させず、後世に語りつぐため、被災者の発生直後と復興とともに変化していった心情を、NPO法人まちかど（小原孝文理事長）と町広報室が共同制作した映像記録作品です。

2. 審査結果の詳細

別紙のとおりです。

3. その他

特選となった広報紙は、（社）日本広報協会主催の平成25年全国広報コンクールに県代表として出品されます。

なお、全国広報コンクールでは、広報紙部門（町村の部）で平成23年に特選（総務大臣賞）、平成24年に入選となり、2年連続で入賞しています。

なお、報道解禁日は、2月7日（木）付け掲載です。よろしくお願ひします。

別紙

審査講評

1 第60回兵庫県広報コンクール

【広報紙部門】

(全体講評)

広報紙部門は、市の部21作品、町の部3作品の応募があり、企画、文章、デザイン・レイアウトを中心に評価した。

応募作品は、全体的に完成度が高く、すべての作品で特集を企画しているなど、力作がそろった。読みやすさを心掛けており、必要な情報を丁寧に盛り込む、表紙と内容を連動させる、などの工夫も見られ、作り手の住民に伝えたいという熱意が伝わってきた。特に今回は、少数派であるタブロイド判が従来型から脱皮して、紙質の変更や横組みレイアウトで登場など、新しい風を感じた。

特集企画では、自治体が抱える課題など、住民と意識を共有すべき事柄をうまくまとめあげている。その中で視点を定め、こだわりを持って取り組めたかどうか、企画の勝敗を分けているように感じた。扱いの大小を問わず毎回特集を掲載することによって、確実にレベルアップするので、今後とも読みやすく、親しみやすい紙面作りに取り組んでほしい。

内容全般について、スペース的にも限界のある紙面で、大量の情報を詰め込むのではなく、取捨選択して印象に残る記事とすることが大事である。写真の使い方も同様で、一枚の写真が長尺の記事より多くを物語ることもある。あれもこれも使いたくなる気持ちを抑え、あえて使わない勇気、サイズにめりはりをつける大胆さなどが求められる。

また、作り手は中身をすべて把握しているため、読み手も分かっていると錯覚し、独り善がりになりやすい。例えば「記事を読まなくても大筋の内容が分かる見出しにする」、「行政用語を分かりやすく言い換える」など、読み手である住民の立場になって作ることが大切である。

広報紙は、新聞とも雑誌とも違い、住民にとってより身近な存在であり、情報を共有する場でもある。様々な媒体、大量の情報があふれる中で、住民に何を伝えたいのかを常に意識し、住民と行政が一層の信頼関係を築くことができる広報紙となるよう、さらなる高みを目指してもらいたい。

(町の部：特選「佐用町／広報さよう 12月号」)

ふるさと創生、再生の熱い思いが結実した大特集は、読み手に訴えかける「チカラ」が強く感じられる。大きく「佐用のチカラ」と書かれた見出しに添えられた「なにくそ魂」にもインパクトがある。各分野で活躍する人たちを取り上げ、具体的なエピソードでつづられた文章、写真にも迫力があり、読みごたえたっぷりの特集となった。表紙から展開される特集の見事なデザイン、レイアウトも力強く、町が持つ力をアピールできている。

見出しのグリーンが効果的で、全体に落ち着いたレイアウトになっている。